



平成 30 年 2 月 10 日

各 位

会社名 株式会社 マルマエ
代表者名 代表取締役社長 前田 俊一
(コード番号：6264 東証第二部)
問合せ先 取締役管理部長 藤山 敏久
(TEL. 0996-64-2900)

平成 30 年 1 月度 月次受注残高についてのお知らせ

当社は、投資家をはじめとするステークホルダーの方々に、より正確に当社を理解していただくために、自社情報のタイムリー・ディスクロージャーを推進しておりますが、この一環として、下記のとおり平成 30 年 1 月度の月次受注残高を開示いたします。

記

1. 月次受注残高 (百万円未満切捨て)

区分	受注残高	割合	対前月増減率	対前年同月増減率
半導体分野	730	69.1%	13.0%	121.3%
F P D分野	306	29.0%	33.3%	96.6%
その他分野	19	1.9%	19.8%	212.0%
合計	1,056	100.0%	18.4%	114.6%

2. 月次受注残高の推移 (百万円未満切捨て)

区分	H29. 2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月
半導体分野	353	450	482	620	564	539
F P D分野	158	173	211	214	278	318
その他分野	7	6	7	24	23	6
合計	518	629	701	859	866	864

区分	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	H30. 1 月
半導体分野	551	567	552	655	646	730
F P D分野	268	258	283	213	229	306
その他分野	0	5	3	13	16	19
合計	820	831	839	882	892	1,056

3. 月次受注残高の概況

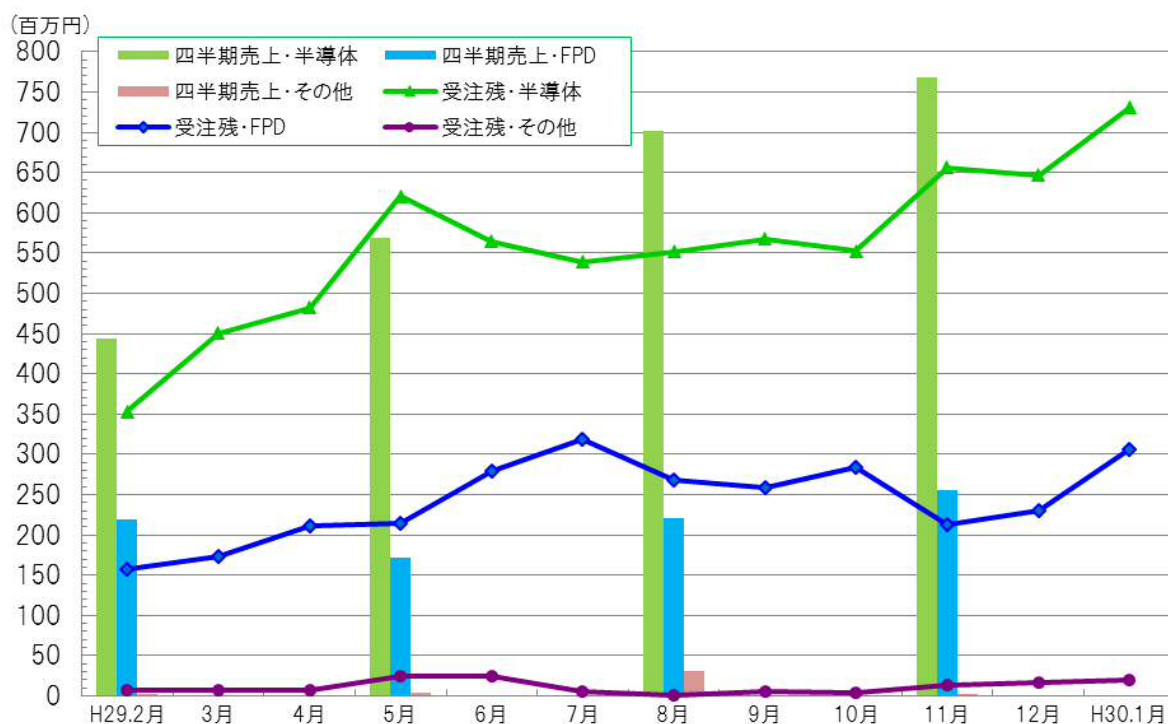
平成30年1月末の受注残高は、半導体分野においては、出荷検収は高水準に推移しつつ、一部製品に数ヶ月分のまとめ受注があったほか、当社の生産能力強化に応じた受注の増加傾向もみられることなどから過去最高水準の受注となり、対前月増減率は13.0%増、対前年同月増減率では121.3%増の730百万円となりました。FPD分野においても、出荷検収は好調に推移しながらも、パネルメーカーの高稼働に伴う消耗品受注の増加もあり、高水準の受注が続き、対前月増減率は33.3%増、対前年同月増減率では96.6%増の306百万円となりました。その他分野においては、おもだった動きはありませんでした。

これらの結果、平成30年1月末の受注残高は、対前月増減率18.4%増、対前年同月増減率114.6%増の1,056百万円と過去最高額となりました。

今後の見通しにつきましては、半導体分野では、新事業所（出水事業所）の設備増強による生産力拡大を見込んだ引き合いと、新たに設置する電子ビーム溶接機（EBM）による電子ビーム溶接（EBW）関連の受注が増加しており、まとめ受注の影響で山谷はありながらも、出水事業所の稼働に合わせて段階的な受注増加が見込まれます。また、出水事業所は4月末一部稼働を目標に工事を進めておりますが、中長期的にも半導体市場は拡大する見通しであることから、4月以降も設備投資は継続的に行い受注拡大を図ってまいります。なお、EBMは出水事業所の稼働に合わせ4月末より本格稼働する見通しです。FPD分野では、顧客の需要予測などより、第10.5世代大型液晶パネル向けと有機EL関連装置の高水準な需要が1年以上続く見通しを持ってまいります。

以上

（参考：分野別 過去一年間の四半期売上高と月次受注残高の推移）



注1. 上記受注残高の数値は、速報値であるため、翌月以降に修正される可能性があります。また、監査法人による会計監査を受けておりませんので、本決算の数値とは差異が発生する可能性があります。

2. 当社の受注残数値は、受注別に長短さまざまなリードタイムを持つことから、売上高と直接関連するものではありません。リードタイムの長い案件が増えると受注残が多くなり、リードタイムが短く当社月間生産能力範囲内の受注が増えると受注残が減る傾向となっております。